

(海洋研修7) カッター漕艇

1 ねらい

カッター漕艇により、自己を鍛え、仲間との連帯感を高めるとともに、目標を成し遂げたときの達成感を得る。

2 対象 中学生～ ※最少人員12人

3 実施可能時期 4月～9月

4 所要時間 160～180分

5 乗船定員 あさひ：24人（おとな） はまなす：24人（おとな）

6 準備物 乗船者名簿（座席割表）、濡れてもよい服、運動靴 ※必要に応じて、雨具

7 経費 カッター帽クリーニング代 350円

8 流れ

(1) 事前指導

- ① 意義や目的などの指導 ② 研修生の健康状態の把握 ③ 班編成

・着座位置の決定（下図参照）

体重（バランス）・体力等を考慮して、着座位置を決定する。また、各自の番号を覚えておく。
下図の①～⑫は比較的体力がある研修生を配置すると都合がよい。
乗船人数が24人に満たない場合の配置は要相談。

(2) 入所時確認事項

- ① カッター帽配布時間・場所の確認 ② 集合場所・時間の確認

(3) 実施当日

① 乗艇まで

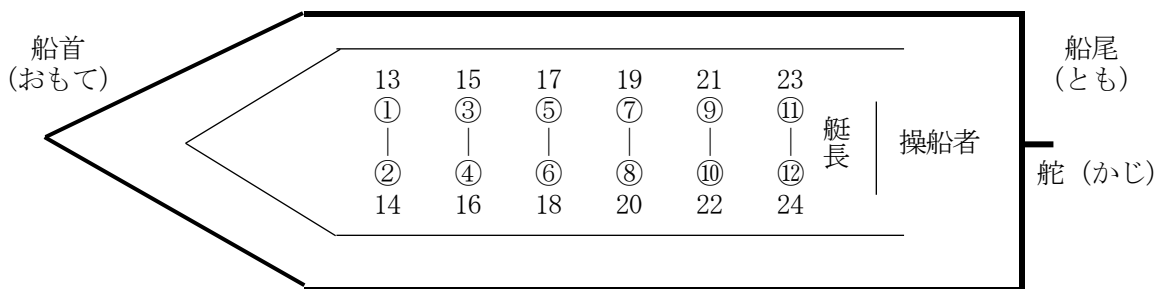
- ・実施の可否は、海洋研修実施基準に従って所長が決定する。
- ・所定の時刻に、カッター帽を受け取る。
- ・団体の引率者の指導のもとに、「自然の家艇庫」まで、徒歩で移動する。（国道横断注意）
- ・自然の家職員の事前説明を受ける。（※手順は次頁参照）
- ・指示された棚（A～D）から座席番号のライフジャケットを受け取って、集合場所で着用する。
- ・艇長の指示に従い乗船する。（船べりに手を挟んだり、滑って転倒したりしないよう注意をする。）
- ・船尾を向いて、自分の番号の座席に座る。

② カッター漕艇

- ・艇長の指示に従い、漕艇を行う。
（当日の気象条件や研修生の年齢、研修時間等に応じてコースを設定する。）

③ 漕艇終了後

- ・着岸後、艇長の指示により順に上陸する。
- ・ライフジャケットの返却は自然の家職員の指示に従う。
- ・カッターの清掃を行う。カッターの収納には、危険を伴うので十分に注意する。
- ・団体の引率者の指導のもとに、自然の家に移動する。
- ・自然の家到着後、カッター帽の返納を自然の家職員の指示を受けて行う。



- ※①～⑫（内側）に座る人は、男性または体力のある人が望ましい。
- ※途中交替をする場合は、13～24（外側）に座っている人との交替が望ましく、何番の人と交換するか決めておく。
- ※HPより座席表をダウンロード可能。

9 その他

- ・活動中は自然の家職員が救助艇で併走し、緊急時に備える。

カッター漕艇の手順

1 使用艇 … 「あさひ」、「はまなす」

2 手順

① 乗船者名簿の提出（職員に1部提出）

↓
② カッター帽を着用する。

↓
③ 自然の家艇庫前に移動する。（引率者の引率、徒歩で）

↓
④ 着座番号の順に整列し、直前指導を受ける。（艇庫脇の広場）※予備の乗船者は脇に整列

↓
⑤ 自然の家職員の指示により、着座番号のライフジャケットを着用する。
※引率者と予備の乗船者は他のライフジャケットを着用する。

↓
⑥ 指示されたカッターに乗船し、指定された場所に着席する。（諸注意を守り、事故防止等に努める）

↓
⑦ 救助艇の曳航で沖合に出る。艇長の指示で、内側の列の人が各自の両足（内側）・膝・両手の3点でしっかり支え、かいを立てる。これを「かい立て」と言う。
（かいを持つ手の位置は、上下に肩幅程度に開いて支える）

(注) かいは、重くバランスがとりづらいので、頭にぶつけないよう、外側の人は手を添えて支える。

↓
⑧ かいの漕ぐ面（ブレード）が全部向かい合うよう、並行にする。

↓
⑨ 「V（ブイ）！」の号令で、内側の列の人は、かいの手元を足で踏み、徐々に外側に倒す。この時、外側の列の人は、かいに手を添えゆっくりとかいをかい座に入れる。次に、「構え！」の号令で、足をゆっくりと離していき、かいを水平にし、ブレードを海面と垂直にする。この時、隣のかいとぶつからないように、かい座にゴムの真ん中が当たるよう、かいを海側に押し出す。

↓
⑩ 「用意！」の号令で、内側の列の人は内側の手を下から（逆手で）柄の部分握り、外側の手は上から（順手で）かいを握る。外側にいる人は、両手で上から握る。両足を前にある踏み板に乗せ、座席に浅く腰掛け、体を前傾させる。前の人の背中に手がつくぐらい両腕を前に伸ばす。

↓
⑪ 「一（い〜ち）！」の号令の後、「ソーレ」のかけ声で、ブレードを適当な深さまで入れ、上体を後に倒すとともに大きく縦の円を描くように手元を顔の高さまで引き上げる。次に両手を下げ、ブレードを水平にした後、腕を前に突き出し、「用意！」の状態に戻る。次の「二（に〜い）！」の号令の後、「ソーレ」のかけ声で、「一」の動作を繰り返す。この時、漕ぎ手も号令をかけながら漕ぐと、前後のかいの動きが揃って、うまく漕げる。

↓
⑫ 艇長の指示により、目標の海域まで漕いで行き、休憩をはさんで艇庫に戻る。

↓
⑬ 岸壁に近づいたら「V！」、「かい立て！」の号令に従い、かいを立てる。

↓
⑭ カッターがしっかり岸壁に固定されたら、船尾（首）の方からかいを船首（尾）の方に倒しかいを納める。この時、急に落とさないように、周囲の人は手を伸ばし支える。

↓
⑮ 艇長から簡単な感想や講話をもらう。

↓
⑯ 艇長の指示で上陸し、ライフジャケットを自然の家職員の指示に従って返却する。その後カッターの清掃をする。

↓
⑰ 所に戻り、カッター帽を返却する。